

びわこ文化公園都市の現在～ビジョン策定時との比較～

資料4

<人口> (H24) (R4)
大津市340,339人→**343,817人**(1.0%増)
(青山・松ヶ丘)9,853人→**10,870人**(10%増)
草津市125,057人→**137,702人**(10%増)
(若草)2,425人→**2,111人**(13%減)
【トレンド】
・今後は横ばいから減少
・少子高齢社会の更なる進行

<エリア内県事業>
「CO₂ネットゼロ推進」(R4~)
「ウェルビーイング」(R4~)
「学生フレンドリー」(R3~)

<施設の整備等>
びわこ文化公園Park-PFI(R5春)
滋賀県立美術館リニューアル(R3.6)
滋賀アリーナ完成予定(R4.12)
名神高速道路草津PAと連携した拠点整備【地域振興施設】(検討中)

<草津市の位置づけ>
「大学、企業等との連携や草津JCT・草津田上IC等の地域特性を最大限に生かした広域連携により、産業の振興や地域の活性化を促進する」
(草津市総合計画(2021~2032))

<交通>

【短期】

- ・新名神高速道路大津～城陽間開通(R6予定)
- ・山手幹線と国道一号線接続(R7秋予定)

【中長期】

- ・名神高速道路草津PAと連携した拠点整備【バスターミナル】(検討中)
- ・都市計画道路平野南笠線(検討中)
- ・大津一山科間国道1号線BP(検討中)

<鉄道> 一日当たり乗車数
(H24) (R3)
JR瀬田駅 17,241人 → **15,020人**(12.9%減)
JR南草津 25,829人 → **23,148人**(10.3%減)

<バス>

最寄り鉄道駅からの便数(平日)
(H24) (R4)
約480便 → 約**570便**
【新規ルート】
・JR大津駅～龍谷大学直通
・コミュニティバス「まめバス」
(草津駅～南草津駅～医大)

<大学> (H22) (R3)
立地3大学学生数 23,728人 → **20,635人**
(13.1%減)

<大津市の位置づけ>
「文化ゾーンの自然と21世紀の健康科学を支える学術・文化のまち」
(大津市都市計画マスタープラン(2017~2031))



参考資料

1. 検討対象地域の位置づけ

(1) 大津市における位置づけ

■大津市都市計画マスタープラン（2017～2031年）

<コンパクト+ネットワークのまちづくり>

大津市都市計画マスタープランの将来都市構造においては、「コンパクト+ネットワークの都市構造を構築する」とし、「鉄道駅周辺等を中心とする地域拠点・生活拠点では、生活に必要な医療・福祉、教育・文化、商業・業務等の都市機能の確保と居住の誘導を図る」としている。そのうえで、「公共交通により、地域拠点・生活拠点を結ぶとともに、基幹的な公共交通（バス等）が通る道路沿道では、居住を促進し公共交通を維持する」としている。

検討対象地域は、「周辺の複数の生活圏を対象として、各生活拠点に配置される機能に加えて、日用品以外の買い物や高度な医療・福祉等の機能が集積する「地域拠点」の一つと位置づけられている。

また、地域別構想では、検討対象地域は東部地域に含まれ、「文化ゾーンの自然と21世紀の健康科学を支える学術・文化のまち」と位置付けられ、「拠点機能の更なる強化とあわせて、各学区と拠点を結ぶ交通ネットワークを再構築するなど、瀬田駅周辺における地域拠点の充実に向けたまちづくり」「自然・学術・文化が共生した地域環境の創造に向けて、豊かな地域資源を生かしたまちづくり」「住民が主体となって定住環境の維持・充実に取り組むなど、住み心地の良い文化性豊かなまちづくり」を目指すとしている。



(出典：大津市都市計画マスタープラン)

(2) 草津市における位置づけ

■草津市総合計画（2021-2032年）

草津市総合計画において、検討対象地域は、製造業等の産業活動を促進するとともに、大学を中心とした様々な分野の人材育成・研究・開発のほか、福祉、医療、文化等の交流活動を促進していく「丘陵・産業・交流ゾーン」と位置付けられている。

また、検討対象地域は、「大学、企業等との連携や草津 JCT・草津田上 IC 等の地域特性を最大限に生かした広域連携により、産業の振興や地域の活性化を促進する」市南部の「まちの拠点」に位置付けられている。

■草津市都市計画マスタープラン

草津市都市計画マスタープランにおいて、検討対象地域は、「南部中心核地域」と位置付けられ、地域の都市づくりの目標として、「大学や医療・福祉施設等が立地し、また、高速道路等が通る広域的な交通の要衝でもある特徴を生かし、地域住民、大学、企業等の多様な交流を促進することで、活力があふれる地域を目指します。」としている。

【第6次草津市総合計画 将来のまちの構造図】



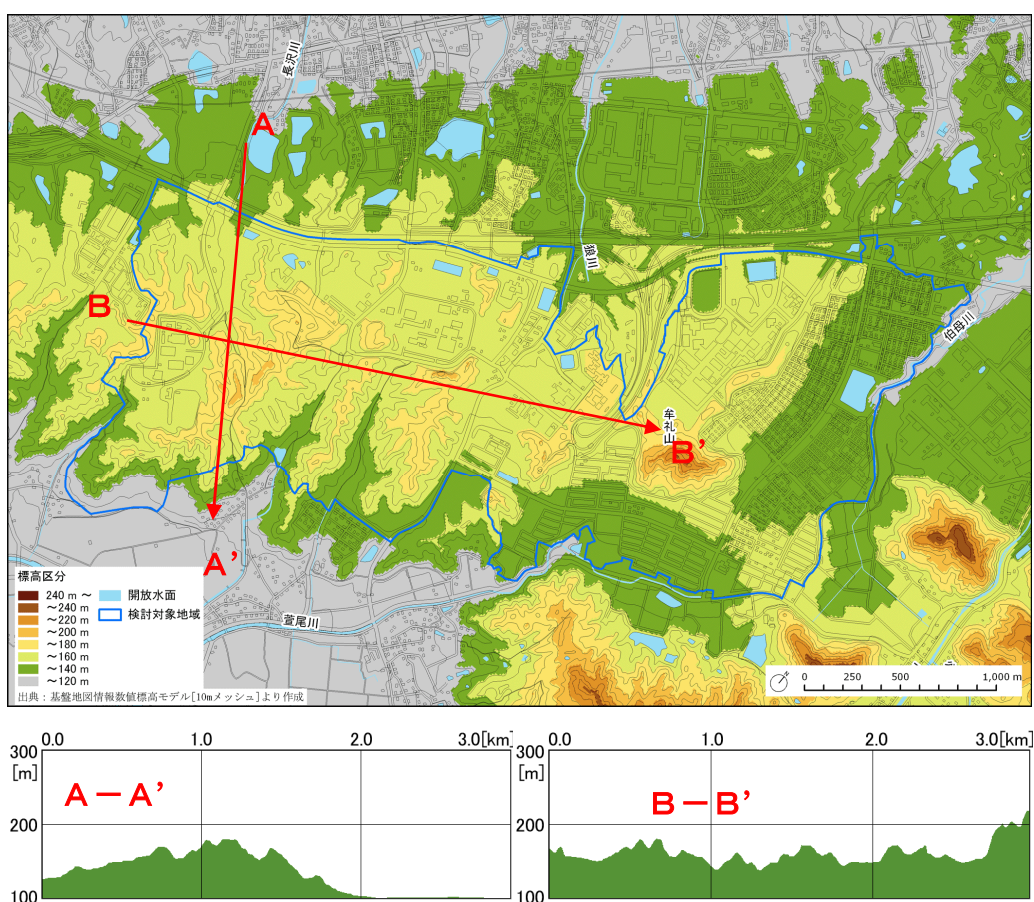
(出典：第6次草津市総合計画)

2. 地勢

検討対象地域は、湖南丘陵群のうち瀬田丘陵の一面に位置する。

標高は約 120m から約 220m の範囲にあり、その高低差は約 100m となる。最高標高地点は牟礼山の約 220m である。

検討対象地域一帯を含む丘陵は、下図の断面 A-A' に示すように、北側への傾斜が緩やかである一方、南側は急傾斜となっている。また、断面 B-B' にみられるように、南北方向に細かな谷筋が走っている。



3. 人口・世帯数および推移

(1) 大津市および草津市の人口・世帯数

大津市および草津市における住民基本台帳による人口・世帯数は、次の通りである。平成24年から令和4年の10年間で大津市は微増、草津市は10%の増加がみられるが、今後は、両市とも横ばいから減少へ向かうと推計されている。

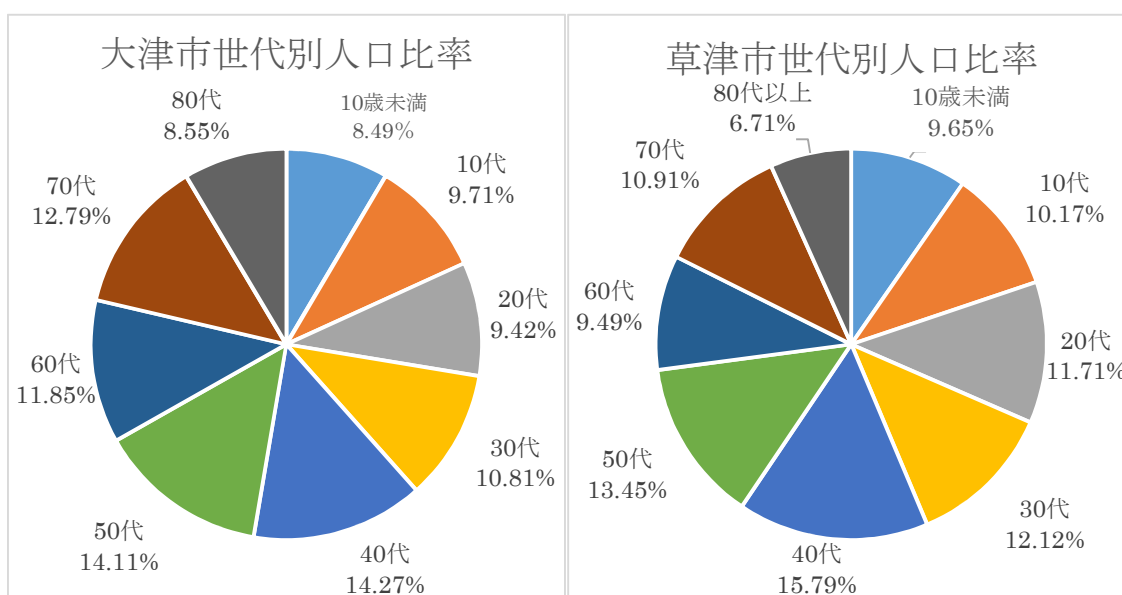
		H24	H29	R4	増加率
大津市	人口	340,339	342,154	343,817	1%
	世帯数	138,919	145,381	154,306	11.1%
	(東部地域)	71,088	75,330	77,385	8.8%
草津市	人口	125,057	132,116	137,702	10.1%
	世帯数	52,165	56,782	62,055	18.9%

(出典：大津市人口統計および草津市統計より)

(2) 大津市および草津市の年齢別人口

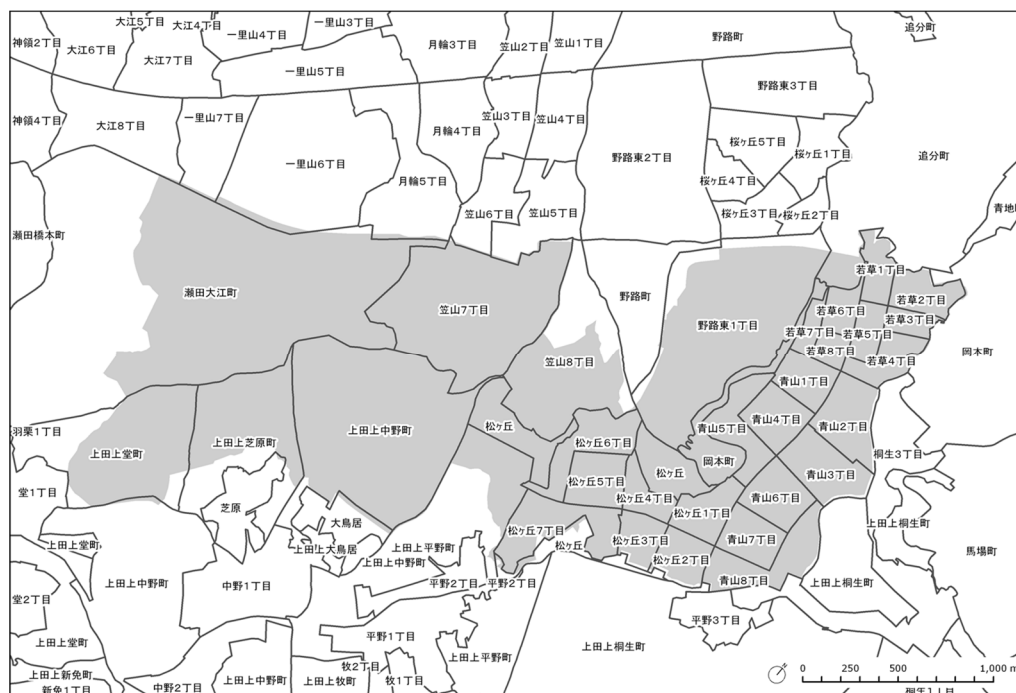
大津市および草津市における年齢別人口比率は下図のとおり

29歳以下の若い年齢層では、大津市27.61%（平成24年当時30.8%）、草津市31.53%（同33.0%）、60歳以上の世代では、大津市33.19%（同28.5%）、草津市27.11%（同24.9%）となっており、この10年間で、両市とも少しずつではあるが、少子高齢化が進んでいることが分かる。



(3) 検討対象地域(住宅エリア)の人口

令和4年4月1日現在、検討対象地域の住宅エリアにおける人口は、大津市側(青山・松ヶ丘)で10,870人(平成24年当時9,853人)、草津市側(若草)で2,111人(同2,425人)となっており、大津市側で10%増、草津市側では13%減となっている。



4. 土地利用

滋賀アリーナ用地が新たに造成された他は、周辺の土地利用に大きな変化はない。

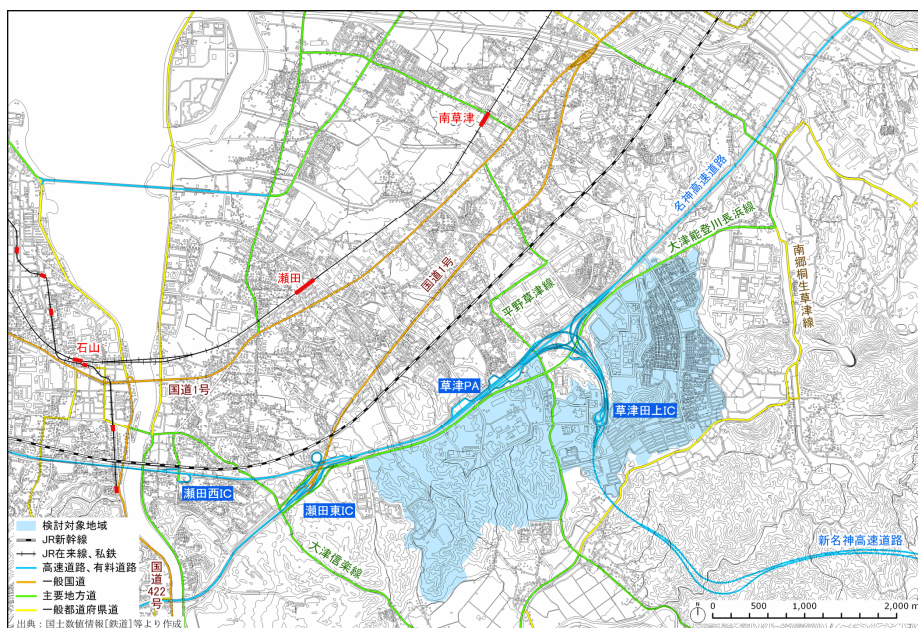


滋賀アリーナ (R4.12完成予定 奥に見えるのが滋賀医科大学)

5. 交通条件

(1) 道路

過去 10 年間、検討対象地域の交通条件に大きな変化はないが、令和 6 年度には新名神高速道路大津～城陽間が開通予定、令和 7 年度秋には山手幹線が甲賀市、湖南市から栗東市を通過して国道 1 号線と接続される予定である。また、名神高速道路草津 PA と連携したバスターミナルや、都市計画道路平野南笠線が検討されており、今後、周辺の交通量増加、広域からのアクセス増加が見込まれる。



(参考：周辺交通網地図)

(2) 鉄道

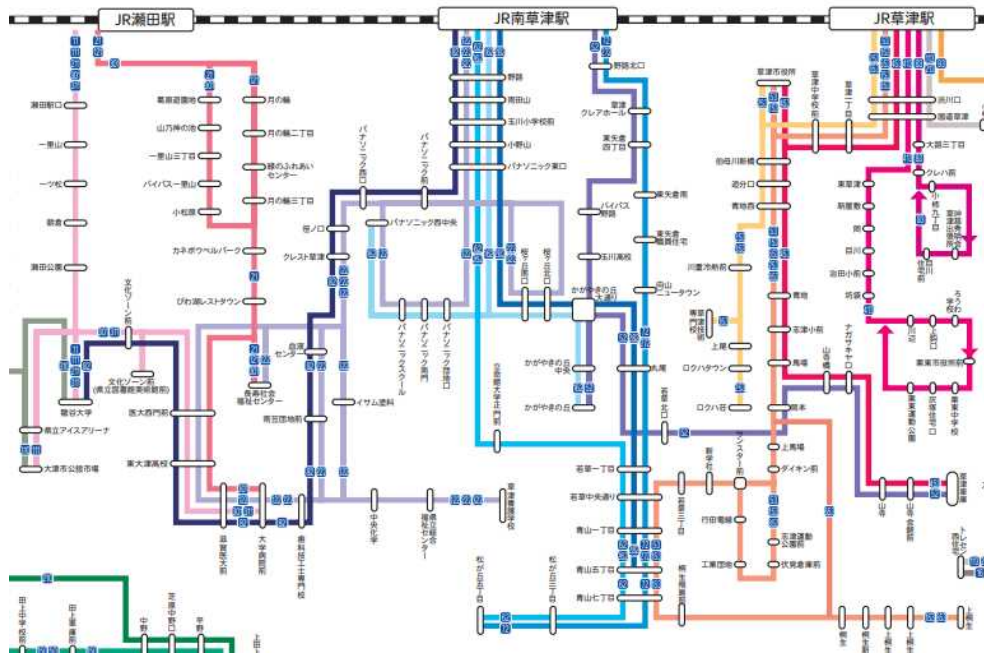
検討対象地域の最寄り鉄道駅は JR 東海道線瀬田駅および南草津駅である。令和 3 年度両駅の一日平均乗車人数は、瀬田駅 15,020 人（平成 24 年度 17,241 人）、南草津駅 23,148 人（同 25,829 人）となり、瀬田駅で 12.9%減少し、南草津駅でも 10.3%減となっている。共に新型コロナウイルスの影響を大きく受けたものと思われ、テレワークの増加や大学のオンライン授業の増加を受け通勤通学利用者が減り、令和 4 年 3 月には、ダイヤ改正により JR 琵琶湖線の運行本数も削減された。

平成 24 年当時検討されていた、瀬田駅～南草津駅間の新駅については、現在のところ検討されていない。

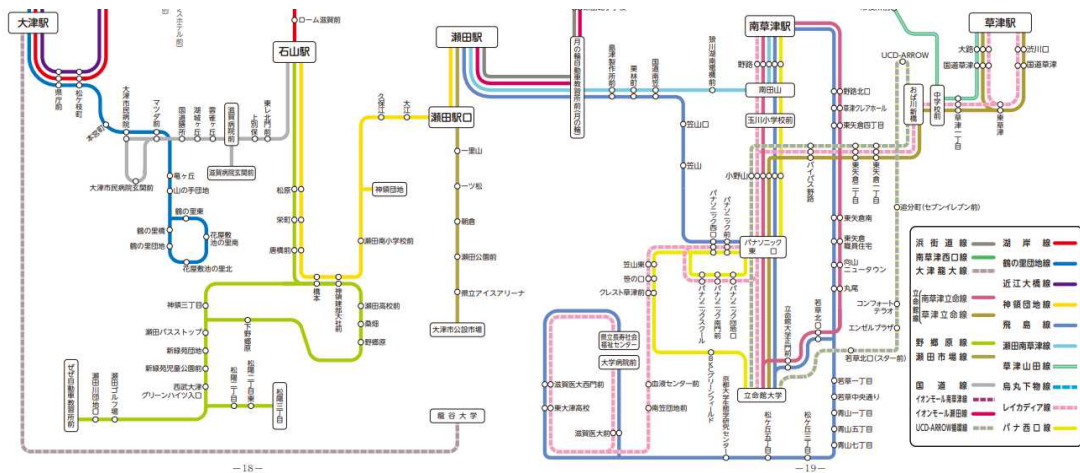
(3) バス路線

最寄り鉄道駅から検討対象地域までのバス路線は、近江鉄道バスおよび帝産バスが地域全体で一日あたり約 570 便（平成 24 年当時約 480 便）となっており、新たに県立アイスアリーナや大津公設市場を経由する便や大津駅～龍谷大学直通便が設定されている。

他に地域コミュニティバス「まめバス」が草津駅～南草津駅～医大間を一日 10 便（平日）運行している。



出典：帝産バス路線図より作成



出典：近江鉄道バス路線図より作成

6. 主要施設

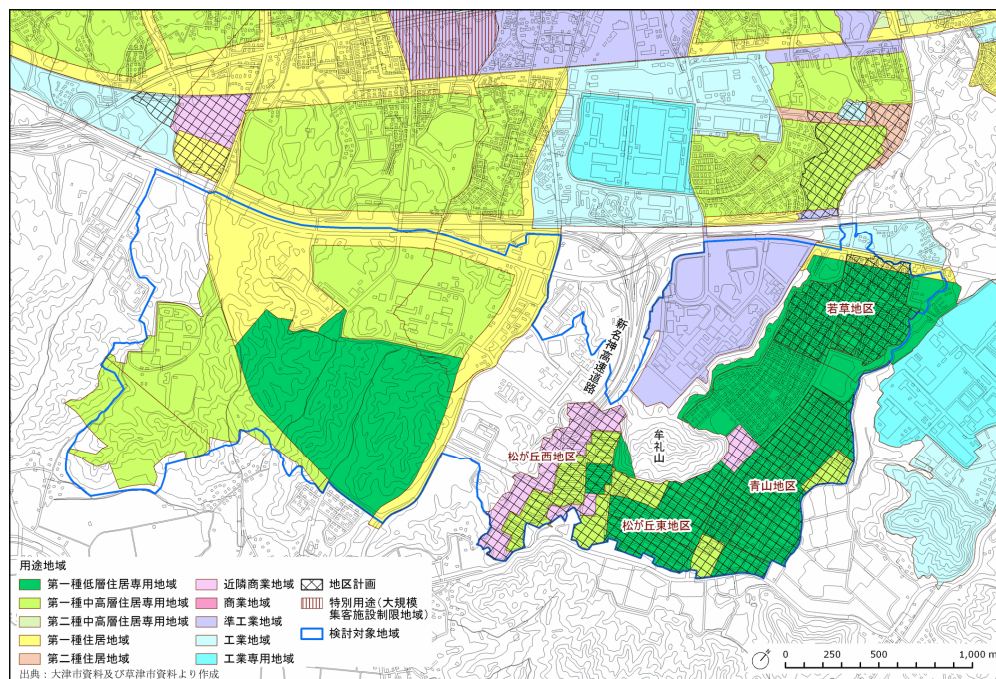
令和3年6月に県立美術館がリニューアルし、令和4年12月に県立アリーナが完成予定。県立図書館の年間来館者は約188,000人(R2)、県立美術館は約110,000人(リニューアル前H28)となっており、滋賀医科大学附属病院では、一日に約1,220人の外来患者を含め約2,000人が来院している。

検討対象地域には、滋賀医科大学、龍谷大学、立命館大学が立地しており、3大学学生数合計は、平成22年度には23,728人だったが、学部移転等の影響により、現在は20,635人(令和3年5月1日現在)となっている。

7. 都市計画の状況

- (1) H28.10.12 新生美術館整備に向けて既存建築物の不適合状態を解消するため、文化ゾーン内の施設建設区域を「第2種住居地域」に変更(大津市告示)
- (2) H29.11.29 県立アリーナが「観覧場」を有する建築物となることから、その計画地について「第1種低層住居専用地域」から「近隣商業地域」に変更(大津市告示)

以上、2点の変更があったが、その他大きな計画の変更はない。



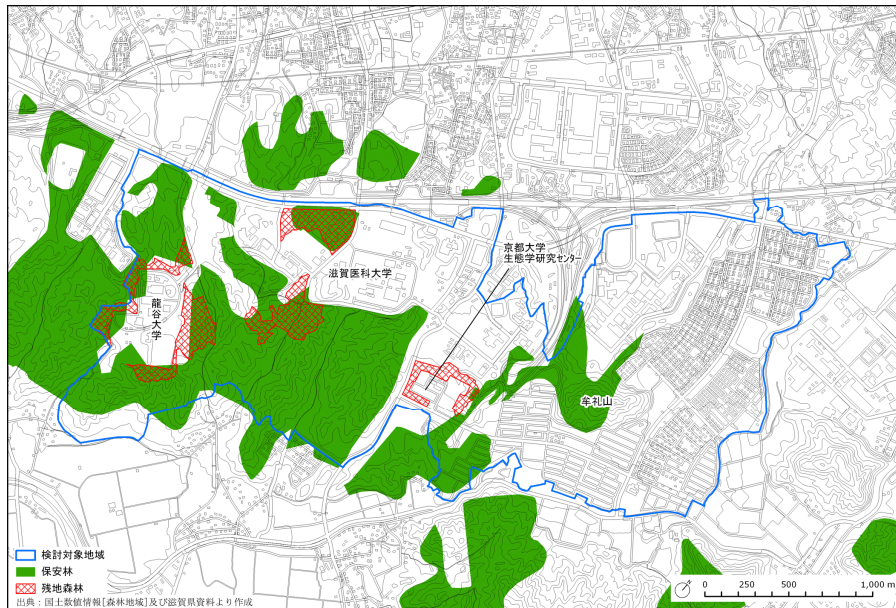
(参考) ビジョン策定時の都市計画図

8. 法規制等

(1) 保安林および残地森林

牟礼山及び西部の丘陵を中心に、検討対象地域の樹林地の大部分（約 182ha、地域全体の約 31.5%※）が、保安林に指定されている。また、滋賀医科大学及び龍谷大学キャンパス、京都大生態学研究センター周辺の森林（約 33ha、地域全体の約 5.7%※）が残置森林である。

過去 10 年間、検討対象地域における保安林および残地森林の状況に変化はない。



(2) 文化財

検討対象地域及び周辺の文化財等の分布は、以下に示す通りである。検討対象地域内においては、国指定史跡瀬田丘陵生産遺跡群（源内峠遺跡）が所在する。

